

建設防災 ボランティアニュース 第 82 号

目次

- ・ 年頭の挨拶
- ・ 河川愛護月間関連行事
- ・ 施設見学会
- ・ 橋と土木展
- ・ 勝鬨橋ミニツアー研修会 他

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。



新年を迎え、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年五月に新型コロナウイルスが5類に分類されて以降、ようやく以前に近い日常が戻りつつあると感じております。しかし、元日の能登半島地震、翌二日の羽田空港飛行機衝突事故など、災害や事故がいつ起こるか分からない事を実感する新年となってしまいました。震災に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年当協会の活動を振り返ってみますと、一月に「勝どき橋ミニツアー」を再開して以降、道路施設等点検、河川愛護月間、総合防災訓練、施設見学会などの各事業も順次活動を開始し、コロナ以前に戻った、と言っても過言ではありません。再開にあたって会員各位のご理解ご協力に対し心からお礼を申し上げます。

然しながら、コロナ以前の様な活動に復活出来た、といっても当協会の抱える課題が解決されたわけではありません。昨年は多くの新規入会者がありました、会員の高齢化、活動可能会員の減少は確実に進んでおります。今後多くの会員確保に努めるとともに、災害等の非常時に当協会が果たす役割を再確認していかなければなりません。当協会の役割に期待する声に応え、安定的な事業継続を目指すためにも、会員各位のご理解ご協力を重ねてお願い申し上げます。

最後にになりましたが、今年も引き続き東京都建設局、(公財)東京都道路整備保全公社、(公財)東京都公園協会の当協会への更なるご理解ご支援を賜ります様お願いするとともに、一層のご発展を祈念申し上げます。また会員各位の今年一年のご健勝をお祈りし、重ねて当協会活動の充実に向けご協力をお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

令和六年 睦月

会長 山口 明



4年ぶりの河川愛護月間行事

今年度の河川愛護月間関連行事は7月の「環七地下の巨大トンネルを体験」を手始めに、10月の「川を歩こうー5 河川」まで、11の行事に参加しました。

防災ボランティア協会からの参加者は延べ人数で39名でした。皆様ご苦労様でした。河川部調べでは15の行事に4,608名の都民の方が参加されました。

今年度は4年ぶりの行事開催という事と、「川を歩こう」行事に新規河川も加わり、またその間にリーダーが交代された事務所班もあり、協会員の参加依頼に手間取ったこともあったようですが、来年度もよろしくお祈りいたします。

河川愛護月間担当理事 高橋紀男

「環七地下河川の見学」 三建班

7月22日に河川愛護月間関連行事の一つである「環七地下の巨大トンネルを体験」が開催されました。建設防災ボランティアからは、佐藤嘉久男さん、島津哲也さんと私、望月裕の3名が参加しました。

当日、若干のキャンセルは出ましたが、総勢152名の都民の方々が参加し、老若男女、特に夏休みに入ったこともあり、家族連れが多くみられました。

4班に分かれて、施設概要、模型及び監視室操作の説明に続き、地下トンネルを見学され、見学後アンケートに記入、水圧扉などを体験していただきました。私達ボランティア会員は、水や河川事業のパンフレットやクリアファイル等グッズの配布、アンケート記入のお願い、回収などのお手伝いをしました。



アンケートでは「普段入ることができない施設に入ることができたのが良かった」、「学校の教科書などでみた施設に入ることができ嬉しかった」、「最近水害が多いので取水設備が整えられていて良かった」、「TVなどで見ていた施設を見られて良かった」、「暗くて楽しかった」など、普段できない貴重な体験だったといったご意見が多かったようでした。

近年、降雨状況が地域的、集中的に変化し、水害等も頻発化、激甚化してきています。このため、東京都では、風水害対策を「TOKYO 強靱化プロジェクト」に位置付け、調節池等の整備や防潮堤の



嵩上げなどを重点的に推進し、レベルアップを図ることとしています。今回のように、調節池等の土木施設を見学してもらい、こうした対策を都民に理解していただく機会はますます重要になってくると思います。このイベントは、唯一、ボランティア三建担当が単独で行うものなので、継続的に行っていきましょう。

三建班 望月 裕

「黒目川の河川清掃」 北北建班

令和5年7月23日、河川愛護月間の行事として、北北建主催の「第30回わくわく川掃除&川あそび」のイベントに、建設防災ボランティア・北北建班として参加しました。

当日は、北北建から三浦所長はじめ上村工事第二課長、植木管理課長など職員8名、河川部から6名、防災ボランティア北北建班からは、江澤、奥秋、吉原、小川、地引の5名が参加しました。加えて一般の方数名の参加者もおりました。

実施内容は、午前10時から概ね2時間、黒目川の神山橋～門前大橋までの約700m区間の両岸高水敷の清掃でした。

当日の天候は、晴天、気温35度。私は、河川清掃は初めての経験であり、道路点検と同じような気持ちで参加しましたが、日影が全くなく全線炎天下での作業であったことから、暑さ対策の必要性を痛感しました。

猛暑の中での河川清掃ではありましたが、防災ボランティア北北建班の5名を含めて参加者全員、



無事に作業を完了することができました。

作業終了後、関係者には開催時期の再検討などを要望しつつ現地を後にしました。

お約束の反省会は、東久留米駅近傍の街中華。生ビールで生き返りました。

北北建班 江澤直人

川を歩こう「隅田川」 一・五建班

隅田川で河川愛護月間関連行事「川を歩こう」が、令和5年10月7日(土)に第一建設事務所・第五建設事務所・江東治水事務所共催で、4年ぶりに実施されました。各事務所の防災ボランティア4名(以下敬称略:林、新井田、田所、清水)は、東京水辺ライン両国リバーセンター発着場に集まり、活動のサポートをしました。



最初に、江東治水事務所の事務局の牧野統括課長代理から、当日の行程(東京水辺ラインのクルージング[両国リバーセンター発着場～桜橋～越中島発着場]と徒歩によるミニ・ツアー[越中島

公園地区～大川端地区～明石地区])と役割について丁寧な説明を受けた後、両国駅から両国リバーセンター発着場間の指定された場所に行き、参加者の案内誘導を行いました。

9:30より水上バスに乗船し、桜橋を経由して約1時間のクルージングを楽しみ、越中島発着場で下船して、越中島公園地区にて参加者64名が3班に分かれて徒歩によるミニ・ツアーが行われました。このため、防災ボランティアも3班に分かれ、移動時の参加者の安全確保や補助を担いました。

具体的には、特に相生橋や佃大橋等の歩道では、自転車等と接触しないよう声掛けをし、堤防天端からテラスへの階段の移動ではベビーカーを担ぐなど、適切なサポートを行いました。予定通り明石地区に3班とも事故等もなく無事に到着することができました。



最後に、各事務所の担当者からサポートへの感謝をいただくとともに参加者から参加して良かったとのお声かけもあり、今後も建設局の行事等に積極的に参加していきたいと考えています。サポートにご参加の皆様、お疲れさまでした。

五建班 清水幸一

川を歩こう「旧中川」 五建班

晴れた日の休日は良いものです。朝起きて窓の外の晴れ渡る空を眺めると年甲斐もなく心が浮き立つ感じがします。今日一日なにかやりたい。趣味のスポーツだったり街歩きや食べ歩きだったり人それぞれ。家の掃除だってやってみれば気持

ちの良いものです。

私は仕事で川沿いを歩くこと(現場調査)が多かったのですが、好天の日は半分楽しみながら歩いていました。都庁をリタイヤして早や6年、今回は防災ボランティアの一員として、よく晴れた秋の土曜日(10月14日)に参加者のみなさんと一緒に旧中川を歩いてきました。



集まったみなさんは総勢35名。2班に分かれて朝9時30分に東大島駅前を出発。旧中川を北上して12時半過ぎに亀戸中央公園に到着。そしてみなさんにアンケートを書いて頂き記念品をお渡しして解散。途中休憩も含めて所要3時間、約5kmの散策でした。

江東治水事務所内部河川工事課の若手(?)職員が案内役となり、途中途中で説明を重ねながら先へと進んでいきます。こちらも負けじと昔とった杵柄で隣り合った参加者の方に補足説明。「旧中川ってちょっとへんな川で水が逆に流れてるん



ですよ」などと声をかけると「ほほう！」と素直に反応してくれ話しが盛り上がる。久しぶりに川の話をする事ができ、参加者の方々にも喜んで頂ける機会を得て、その日の晩酌はいつになく美味しいものとなりました。



河川愛護月間、言葉のとおり川を愛しみ護るわけですが、ご存じの通り川には色々な顔があります。昔から洪水、浸水などをもたらす川は恐れ敬う対象でもありました。長年にわたる治水対策に携わってきた先輩諸氏や、今も河川整備に従事されている現役の皆さんの弛まぬ奮闘、努力が、多くの人々に愛され親しまれる、そして安全な東京の川の今日の姿を創り上げてきたのです。

年寄はつつい愚痴を言ったり昔話をしたりするものです。そんな私の昔話が、一人でも多くの方に川の過去を知り、学びそして愛し護っていただく、そのための活動に少しでもお役に立てたのではないかと。まさに、自分の心をウキウキワクワクさせてくれる好天の一日となりました。

五建班 内野祐彰

川を歩こう「南浅川」 南西建班

「川を歩こう」の行事がコロナ過を乗り越え4年振りに開催された。南西建設事務所の南浅川は10月14日(土)、コースは集合場所である高尾山ケーブルカー高尾山駅の広場からJR高尾駅北口までの3.5Kmほどの行程である。

ボランティア協会からの参加者は金子喜永さんと高橋紀男の2名であった。



当日は朝から快晴に恵まれ一般登山者も多く、ケーブルカーは満席状態で参加都民 30 数名の一部が予定のケーブルカーに乗れず、出発時間が 20 分ほど遅れた。

ルートは「行ノ沢」沿いに裏高尾を下山し、蛇瀧橋で南浅川に合流、川沿いを歩く途中「南浅川流域連絡会」の会員から、高尾山の成り立ちや山中の植物の種類の多さ、貴重昆虫の説明など興味深く参加者を飽きさせない名調子の解説を受けながら休憩地点の駒木野公園に到着した。

休憩後、川沿いを少し離れたの小仏関所跡や駒木野庭園など旧所・名跡を訪ね、上栢田橋で案内川が合流し、やや水量が増した玉石張り護岸沿いをゆっくりと歩き、やっと JR 高尾駅北口に午後 1:20 頃到着した。

山道を下ったこともあり、4 年ぶりのことで体力が確実に弱ってきたことを実感させていただいた。

主催者である南西建設事務所の副所長から解散の挨拶を頂き、参加者からのアンケートを回収した。小中学生から男女 70 代の高齢者と幅広い参加者であったが概ね良好満足の様子であった。解散後、ボラ協の二人は昼飯と反省会を兼ね、少しのアルコールを頂きながら自分の安全確認と普段に歩くことの大切さを実感した。

南西建班 高橋紀男



川を歩こう「多摩川」 西建班

10 月 14 日の土曜日に、西多摩建設事務所主催の河川愛護月間イベントとして、「川を歩こう—多摩川コース」が開催され、ボランティア協会西建班も同行協力させていただきました。

9 時ごろ JR 青梅線鳩ノ巣駅に、約 30 名の参加者の皆様が集合、浅見工事第二課長をはじめ西建の方々が万全の態勢で待ち受けました。奥多摩観光協会からも 4 名のガイドさんが来てくださり、多摩川の清流を眺めながら徒歩で白丸ダムまで歩きました。白丸では日本一落差があり長い白丸魚道を全員で見学しました。



好天に恵まれ、4 年ぶりのイベントに、参加者も主催者側も笑顔があふれ、全員が無事に見学を終える、楽しくも有意義なイベントとなりました。

西建班 東野 寛

川を歩こう「石神井川」 四・六建班

—初めて参加、私の地元です—

令和 5 年一番とっていいくらいのさわやかな青空に恵まれた、10 月 21 日(土)、河川愛護月間行事、川を歩こう(石神井川)に参加しました。

参加者は抽選により決定したそうですが、当日までのキャンセルが多く一般の方 20 名でした。一方、我々スタッフは、四建さんと六建さんが合同で取り組んでおり、安部副所長、照井課長も参加いただいて職員総勢 21 名、そして建設ボランティア 3 名(長島、荒井、小林の各会員)といった万全の

態勢でした。



10:00 に集合場所の板橋区役所を出発して、旧中山道の宿場町跡を通り、石神井川にかかる板橋から川沿いを歩いて北区の王子駅付近、音無橋までの約 4.5km。途中北区の私の出身中学校の裏も通る懐かしい川を歩こうでした。

コロナで中止を余儀なくされ 4 年ぶりの開催。説明者、スタッフは、通常業務の合間にマニュアルの整理、時点修正をして大変ご苦労されたと聞きました。

アンケートでは、「いろいろ説明してもらいわからないことがよくわかった。またゆっくり歩いてみたいと思う」とか「説明が丁寧でわかりやすかった。川の歴史がよくわかった」などお褒めのご意見をいただいたようで職員の方々もほっとしたことでしょう。マスクをしながら2時間のご説明お疲れさまでした。

河川整備が進み、上流の練馬区の未整備箇所が詳しい現役の方々には、下流の整備区間は新鮮だったのではないのでしょうか。また当日配布のパンフレット「東京の川を歩こう」も素晴らしい出来栄でだんだん良くなってきています。



良い気候に誘われて散策やジョギングなど地域の多くの方々が河川を利用されていました。約 30 年前に整備された親水公園や緑地、管理用通路が地域に根付いて趣のある落ち着いた空間となっていることが確認できました。よかった。

12 時過ぎに予定どおり無事終了。その後恒例の昼食を兼ねた意見交換会では、飛鳥山分水路工事に従事された長島先輩の苦労話に耳を傾けながら、おいしい食事ですばらしいひと時でした。地元の私はまた来年参加させていただきます。

皆様ありがとうございました。

四建班 小林一浩

人気の施設見学会

今年度は、11 月 8 日(水)に第四建設事務所管内の城北中央公園調節地と環状 5-1(雑司ヶ谷)地下道路の2か所を見学しました。参加者は、33 名の会員に会長、副会長と担当理事を合わせて 39 名でした。

今回、担当の横井理事が参加者募集のメールを発信したのは、10 月 5 日の未明でした。そしてその日の明け方には最初の応募メールが届き、午前中には募集人数の 30 名に達したので、11 時半頃、募集終了のメールを発信しました。しかし送受信との関係で、その後も数名の応募があり、キャンセル待ちで対応させていただきました。最終的には四建事務所のご配慮で、参加者 39 名にしていただき実施しました。

募集早々に満席になるとは思いもよみませんでした。改めて施設見学会への強いご要望を感じるとともに、希望しながら参加できなかった会員の皆様にはお詫びいたします。



見学会後は、四建の方々にもご出席いただき有志で懇親を深めました。改めて四建の皆さんの丁寧な対応とご案内に感謝申し上げます。

担当理事 久保田元久

こころ踊る大規模事業

11月8日(水)数日の荒天が一転した快晴の中、第四建設事務所のご協力のもと、城北中央公園調節池構築及び環5の1(雑司ヶ谷)整備という大規模工事をバスで巡る施設見学会が開催され、協会新入生として参加させていただきました。

四建時代担当した環5の1工事、木陰でよく休んだ公園での工事ということで、即座に希望しました。2時間で枠が埋まったとのこと、参加できたのは大変幸運でした。

調節池現場事務所で、当会山口会長の挨拶に続いて、四建香月所長から、石神井川溢水を防ぐ25万m³の地下調整池の概要、及び今回の第一期工事は30m×80m×35m余りの貯留函体2基を、ニューマチックケーソン工法で同時に沈降させる日本最大級の工事で、当工事の9万m³分は令和7年度に稼働予定との工事説明の後、現場へ向かいました。土木屋としての血が騒ぐとでもいうのでしょうか、大規模工事の現場は不思議にいつでもワクワクするものです。



整頓された現場を抜け函体を地下へと降りました。クラックもなく、見事なコンクリート構造物だと感心しながら、完成・開放後は入ることもできないコンクリートの箱の中を満喫させていただきました。

函体接続には凍結工法も用いるということで、感

心するとともに担当者が羨ましくもありました。函体を分けた理由は沈下の際の偏心による破損を考慮したとのこと。他にも質問が出て、所長の苦心の回答が印象的でした。



次に向かったのは環5の1雑司ヶ谷の現場で、池袋駅前の通過交通をこの道路に転換することで渋滞を緩和するものです。

都電を上を抱え、地下鉄等の障害物を避けて構築するトンネル現場でした。

インフォメでの説明の後、地下トンネルに入りました。

目白通りから、豊島区役所まで開通後は車でしか通れないトンネル940mを歩いて豊島区役所前の開口部まで見学させていただきました。苦心の跡のアップダウンもよくわかり、施工の難しさが想像できました。こちらも美しく見事なコンクリートでした。

こちらは質問もなく、所長のほっとした笑顔が印象的でした。



四建当時の工事では地下からザクザク煉瓦が出てきたな。とか、交差点付近、道路中心の地下に向かう謎の階段はどうしたのだろうかなど、思い起こしながらとても懐かしい思いでした。

トンネル開口部で集合写真を撮り新井副会長に締めさせていただき解散となりました。

大規模工事を抱える事務所は大変だろうと思いを寄せながら、説明をしていただいた香月所長をはじめ、対応いただいた職員の皆様、受注者の皆様に感謝申し上げます。

また、この見学会を企画していただいた本会幹事の皆様、ありがとうございました。

北北建班 地引尚治

盛況の「東京 橋と土木展」

今年度の「東京 橋と土木展」への参加について、当初土木技術支援・人材育成センターとの調整では、期間中の平日 4 日間は午後のみ、23 日の祝日は午前、午後の各 1 コマの合計 5 人の協力依頼でした。しかし午後が 4 時間の長丁場になるため、日曜の午前中を除いて各コマを半分に分け、合計 9 名での協力をお願いして募集しました。

その結果 14 名の応募があり、希望日時を最優先にして枠が埋まった 9 名にお願いしました。このため 5 名の方には今回ご遠慮いただき、会場に足を運びスタッフを励まし、会場を盛り上げていただくようお願いしました。来場者数は速報値で 4 日間の合計で約 48,000 人でした。応募された方に感謝するとともに、来年度もよろしく願いいたします。

担当理事 川合康文

現役職員の努力にじんわり感動

11 月 21 日から 24 日の 4 日間、新宿駅西口広場イベントコーナーにおいて、「橋と土木展」(同時開催:土木学会主催「土木コレクション」)が開催されました。

一昨年度までコロナ禍で中止を余儀なくされていた同イベントですが、昨年度に続き、本年度も

無事開催の運びとなりました。私は、21 日のオープニングにボランティアとして参加しました。

本年は関東大震災 100 年の節目であることから、「震災復興のレガシーと災害に負けない強靱で持続可能な都市づくりへ」が、テーマとなっています。

今回は、震災直後に製作された「大東京模型」「九段坂模型」(共に東京都慰霊協会蔵)「清洲橋模型」(金沢大学蔵)などの展示がお客様の目を引いていました。



大東京模型

また、現在の建設局の都市強靱化に向けた取組例として、「白子川地下調節地模型」「日野橋模型」「東京スカイツリー周辺模型」などが展示、担当各部の職員の方々が説明にあたるなど、局事業全般にわたる紹介が行われていました。

会場には防災や橋梁に関心があるお客様が大勢立ち寄られ、熱心に展示物をご覧になったり、担当者に質問をされていました。私は複数のお客様から「隅田川に架かっている橋は大地震が起ころうとも大丈夫なの？」などのご質問をいただき、汗をかきながら回答をさせていただきました。

また、新規に作成された隅田川 6 橋の橋カードも配布されており、大好評を博していました(お客様に撮影者が現役の局職員との話をすると、卓越した写真技術に目を丸くして驚いていました)。

昨年度は、現役の土木技術・人材育成センター職員として主催する側でこの場に臨んでいましたが、立場が変わりお手伝いをする側に替わってみ

て、現役職員の方々の時間をかけた企画・準備から運営及び本イベントの成功に向けて連携してきた多くの関係者の協力・努力を思うと、じんわり感動を噛みしめながらのボランティア・デビューでした。



岡村さんと清洲橋模型

近々西口広場でも大規模な工事が始まるため、来年度以降同じ場所での開催については、微妙とのこと。本イベントのように広く都民の皆様へ建設局の仕事や功績を知ってもらう機会には稀有なため、何とか工夫して継続していただきたい、と切に願っています。

南東建班 岡村浩志

充実のミニツアー研修会

勝鬨橋ミニツアー研修会が11月29日(水)15時15分から、保全公社大会議室で開催されました。昨年度はツアー再開の準備のためのガイドブック説明会として開催したため、4年ぶりの講習会形式の研修会となり、会員49名を含む56名と例年以上の沢山の皆様にご参加いただきました。



山口会長の挨拶に続いて、御来賓の東京都建設局原田道路保全担当部長及び東京都道路整備保全公社小菅総務部長より、協会への感謝と励ましの御挨拶をいただきました。続いて公社の坂本調整担当係長からツアーの開催状況及びアンケート結果などの報告がありました。



原田道路保全担当部長



小菅総務部長

次に10年間継続して案内を担当した14名の方々(この4年間で10年を迎えられた、池田、井上、岩井、大坪、佐野、高橋、多澤、野村隆、橋本、林幹、藤野、船山、古川、山口の各氏)に、会長から感謝状が贈呈されました。

続く、「復興は橋から～復興橋梁から何を学ぶか」と題する、道路整備保全公社紅林橋梁担当課長の講演は、江戸時代から震災復興までの東京の橋の歴史、技術、携わった人々についての興味深い話の連続で、アッという間の1時間を楽しませていただきました。ありがとうございます。



紅林橋梁担当課長

研修会終了後の5時半から、久しぶりの二庁4階食堂で開催された懇親会は、会員39名に加え建設局、公社の方々12名もご参加頂きました。

新井副会長の挨拶、若林道路管理部長の「20年以上前に勝鬨橋橋脚内に入ったことがある」とのお話もあったご挨拶、ご出席された道路管理部、保全公社の方々の紹介に続き、村上一建所長の乾杯で始まりました。

久しぶりの懇親会でもあり、あちこちで歓談の輪ができ、会話に花が咲き、たいへん盛り上がる

なか、今宮無電柱化推進担当部長の中締めでお開きとなりました。

改めて、この研修会を共催する建設局、道路整備保全公社、ボランティア協会の3者のミニツア一関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

ミニツア一担当理事 林幹生

講演の時間が足りない!!

一昨年12月の研修会(勝鬨橋ミニツア一再開に向けて)以来、久々の研修会であること、懇親会も行われることなどから、40名を超える多くの方々の参加があり、活気にあふれていました。

ミニツア一の再開にあたっては、以前の1日4回開催(午前・午後各2回)から2回(午前・午後各1回)に減らし、1回あたりの時間と受入人数を増やすなど、大きな変更がありましたが、開催状況の説明において、5年ぶりに再開されたミニツア一が順調に運営されていること、また参加者からのアンケート結果(自由意見)により概ね好評であることが報告され、安心しました。

10年継続支援者への会長感謝状贈呈では、諸先輩方の元気な姿を見ることができ非常に良かったし、今後も元気で頑張っていこうと思いました。

紅林さんからの「復興は橋から～復興橋梁から何を学ぶか」と題した隅田川橋梁を中心とした講演では、戦後復興における技術者の取り組みなどについて裏話も含め、大変興味深いものでした。ただ、時間が足りなく一部割愛された部分もあり、何か物足りなく残念でした。いずれ時間を十分確保した上で、再度講演していただくことを希望します。可能であれば、長大橋梁の架設や近年の橋梁などについても聞いてみたいです。

懇親会には、研修会出席者のうち多くの方々が参加されました。これは懇親会が久々に催されたこと、会場が都庁であったことなどが要因ではないかと思います。2庁4階で飲めたことが本当に久々であり、十分楽しむことができました。さらに、職員とも意見交換ができたことなども非常に意義のあることであり良かったと思いました。

五建班 加藤直宜

懇親会の様子あれこれ



新井副会長



若林道路管理部長



総会と懇親会—北北建班

延べ 18 名が活動に参加

コロナが明け、今年度上半期の活動は一気に元に戻り、7月の河川清掃、道路施設点検に始まり、9月の総合防災訓練への参加と久しぶりに充実した活動内容でした。一方、時期的に猛暑の中での活動であり、延べ 18 名の参加者全員の熱中症対策が一番の課題となりました。

総合防災訓練には、地元開催ということで山口会長も参加され、「有事の際、我々ボランティアは現場の活動よりもこれまで培ってきた知見に基づく情報提供等に当たるべきではないか」との言葉が印象的でした。

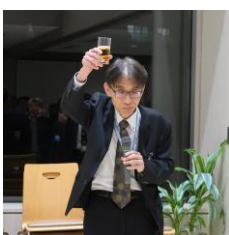


北北建班では、これらの活動の報告と親睦を深めるため、令和 5 年 11 月 17 日に今年度 2 回目の総会及び懇親会を開催しました。

総会では、上半期の活動報告と下半期の活動予定を奥秋サブリーダーより報告があり、その後、懇親会に入りました。6 月に入会した地引さんの挨拶を皮切りに参加者全員から近況報告があり、和やかな懇親会となりました。

今後は、第 2 回道路施設点検及び参集訓練への参加に向けて、メンバー一同健康に留意し、より一層ボランティア活動と懇親に励んでいきたいと思ひます。

北北建班 江澤直人



村上一建所長



今宮担当部長

訃報



昨年の12月14日に三建班の篠原憲一さん(享年81歳)が急逝されました。平成15年の入会以来、平成16年から25年まで西部公園班でリーダーとサブリーダーを務め、平成26年からは三建班に移られて活動を続けてこられました。勝どき橋ミニツアーに参加し、砂防ボランティアも併任された21年間の活動に感謝するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

編集担当 林 幹生

追悼

篠原氏の思い出

篠原氏と仕事での出会いは、昭和46年6月の局の組織改正により道路部が道路建設部となり、橋梁課、工事一課他が改組されて道路橋梁課となり、篠原氏は旧橋梁課工事係より橋梁工事係へ、私は旧計画課橋梁計画係から橋梁企画係へと配属となり、ここで知り合ったのが最初で約2年間一緒に仕事をしていたのが最後であった。

その後、彼も私の経た橋梁工事係長、橋梁企画係長などを歴任、その後気の合った仲間とも定期的に逢い、一献傾けながら彼の橋梁論など聞いたのも懐かしい思い出である。ビール党の酒豪で口角泡を飛ばすとはこのことかと思ったりした。

退職後本格的習っていた水彩画は感心する程上達していた。4年程前に彼は体調を崩して入院し、本人曰く地獄の釜が開いたが入るのを拒否されたと、嬉しそうな顔で語っていたのが思い出される。

近年はたまに行う下手なゴルフで健康の確認、年が明け暖かくなったら又ゴルフを約束したが、まさか12月に急逝するとは驚き残念です。

心よりご冥福を申しあげます。

四建班 小柴昌幸

協会からのお知らせ

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(hayashi471@mbr.nifty.com)
- ② 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板 <http://tokyo-adv2.info/>)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っていますので、積極的にご活用ください。なお、建設局報の閲覧には、パスワード「kyokuhou」の入力が必要です。
- ③ 令和6年2月6日(水)の、午前中に「初動対応訓練」が、午後に「砂防講習会」が予定されています。奮ってのご参加をお願いします。

編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して多くの活動が再開され、河川愛護月間関連行事をはじめとして沢山の報告をいただきました。そのため嬉しい悲鳴を上げながら編集したところ、8頁に収まらなくなってしまいました。10頁だと冊子にならないため、今回は写真を大幅に増やして12頁の編集です。皆様のご協力に感謝いたします。次号は初動対応訓練がメインになりますので、更なるご協力をよろしく願いいたします。(MH)

発行人 山口 明

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

新宿第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、西村行正

林 幹生

